國立政治大學　108　學年度 轉學生 招生考試試題

考試科目	日語B	系所別	日本語文學系三年級	考試時間	7月10日(三) 第2節

一・請將底線的漢字改為假名，假名改為漢字　30%

1. 観客席も更衣室もないグラウンドで試合をし、木陰①で着替えることも。２０年ほど前、女子サッカーの選手はそんな環境に耐えた。遠征費が支給されず、試合をあきらめる選手も多かった。開催中のW杯で「なでしこジャパン」を率いる②高倉麻子監督も、選手時代はとほう③に暮れた経験をもつ。(朝日コム)
2. 戦後永らく、日本の農産物は厳重④な輸入規制の下で保護されてきたが、こうした農業保護政策に対する国際的な非難が高まる中で、牛肉、オレンジなどの果物、種々の果汁、トマト加工品、乳製品等の輸入がじゆうか⑤されるようになった。価格の安い輸入食品の消費量は拡大していき、日本の農業は海外とのきょうそう⑥にさらされ、平成に入ると食料自給率はカロリーベースで50%を下回るようになった。(『現代用語の基礎知識 2019』)
3. 2017年(平成29年)の訪日外国人旅行者1人当たり旅行支出を費目別⑦にみると、買物代が5万7,154円と最も高く、次いで宿泊費(4万3,397円)、飲食費(3万869円)の順となっている。国籍・地域別にみると、宿泊費は、英国、オーストラリア、フランス、イタリア、ドイツ、スペイン、米国等の欧米豪の国々がじょうい⑧を占めている。買物代では中国が11万9,319円となり、前年にひきつづき⑨最も高かった。(日本国土交通省観光白書平成30年版)
4. アメリカの心理学者のソウル・ギャッシンとローレンス・ライツマンによると、無実の人がうその自白をしてしまうパターンには、大きくわけて3種類あります。一つ目は、誰かの身代わり⑩となるために、みずから進んでうその自白をするものです。二つ目は、取り調べの圧力に耐えきれず、自分が犯人ではないと自覚しながらうその自白をするものです。そして三つ目は、取り調べのさいちゅう⑪に、ひょっとしたら自分が犯人かもしれないと自分を疑い始め⑫、うその自白をするものです。(『役に立つ心理学のはなし』)
5. 20世紀以後は、船や飛行機、自動車などで人の行き来する範囲が広がり、それまで人間が足をふみいれなかった⑬場所が開発されたり、めずらしい動物が狩猟⑭の対象にされたりするようになり、動物たちがピンチに陥っている⑮。つまり、今、起きているといわれる大絶滅の原因は、人間の活動と非常に深い関係があるのだ。(アエラドット)

二・以下為書信的一部分。請將括弧內的動詞改為待遇表現(尊敬語或謙讓語)。16%

本日は、大変①（申し訳）。
急にやむを得ない事情が生じまして、急いで②（電話する）のですが、もうお家を③（出る）ようで、ご連絡がつきませんでした。ご迷惑をおかけしましたこと、どうか④（許す）。
近日中に、改めて、そちらへ⑤（行く）たいと思って⑥（いる）ので、ご都合を⑦（聞く）くださいませんでしょうか。来週の日曜日の晩に、またお電話を⑧（する）ので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

三・請用以下的表現造句　20%

考試科目	日語B	系所別	日本語文學系三年級	考試時間	7 月 10 日(三) 第 2 節

1. ～（V－た）ところで＜逆接＞
2. ～はともかくとして
3. ～ないとも限らない
4. ～（V－る）よりほかはない

四・請將以下文章的下線部分((A)(B))翻譯成日文　34%

香港「民間人權陣線」今（28）日發起「反送中」遊行，號召港人上街反對政府修訂《逃犯條例》，主辦方表示有 13 萬人響應活動，民陣副召集人陳浩桓揚言，如果政府不願撤回草案，將發起包圍立法會。

(A)由香港民陣發起的「反逃犯條例」遊行，今日下午 3 時 40 分時從銅鑼灣東角道出發遊行至香港立法會，示威民眾要求港府撤回極具爭議的引渡相關條例修正案，其容許港府以「單次個案」方式，將在港嫌犯引渡至台灣、澳門及中國等地受審，引發北京藉此進行司法迫害的疑慮。(24%)

根據港媒報導，相較於 3 月 31 日抗議修訂《逃犯條例》遊行，這次參與人數明顯比較多，人潮擠爆銅鑼灣起點，有民眾推著嬰兒車一家大小一同參與。由於人數眾多，民陣在警方要求提早開始遊行，遊行隊伍末端直到晚間 7 時 45 分才抵達立法會示威區。

(B)主辦方民陣表示，今日遊行有 13 萬人參與，警方則稱最高峰時有 2 萬 2800 人參與，但兩個數字都是佔中後的遊行人數新高。(10%)

民陣副召集人陳皓桓表示，今日遊行人數只是一個開始，如果政府不願意撤回修例，民陣將會發起包圍立法會。他也指出，這次並非各政黨或團體煽動港人，而是特首林鄭月娥和保安局長李家超煽惑港人上街遊行。

香港眾志秘書長黃之鋒上台發言說，政府視民意如無物，集會人數多，是向政府證明，港人並未心死，未來能否擋下《逃犯條例》修訂，除了取決於議會內的票數，更取決於議會外的香港人。

民主派議員毛孟靜指出，立法會週二將舉行相關法案委員會第 2 次會議，民主派承諾「盡做一切」，反對「惡法」。她提到，目前人在台灣的銅鑼灣書店前店長林榮基，託她向香港人說，每人都應盡一分力，並非只看見希望才堅持，而是堅持才有希望。

（自由時報 2019-04-28）

備註	一、作答於試題上者，不予計分。 二、試題請隨卷繳交。

考試科目	日本社會文化B	系所別	日本語文學系 三年級	考試時間	7月 10 日(三) 第四節

一、次の文章を読み取った上で、傍線部の問いに日本語で答えなさい。

1.

アイヒマン裁判がスキャンダルなのは、もしハンナ・アーレントの分析（『イェルサレムのアイヒマン』みすず書房）が正しければ、①完全に悪意が欠如した状態で巨悪がなされうる可能性が露呈したためだ。なぜならユダヤ人の大量虐殺にかかわったアイヒマンの問題は、彼の悪意ではなく、「想像力の完全な欠如、他人の身になり、他人の立場から世界を見る能力の不全」とみなされたからだ。

技術とシステムが人間の制御と想像の範囲を超えた時、アイヒマンの問題はあらゆる人間の問題として共有されることになるだろう。その意味では核戦争の悪夢も同じことだ。アンダースの予言によればそれは「歴史上これまで存在したことのない、最も憎しみを伴わない戦争となる」はずだ。

そう、このとき「悪」はもはや自然にも人間にも帰属し得ないものとなるだろう。それは①「システム的な悪」として、われわれ全員に共有されることになる。

「私たちの行く手を阻む大災禍は、人間の悪意やその愚かしさの結果というよりも、むしろ思慮の欠如（thoughtlessness）の結果なのだ。もしその災禍が避けがたい運命のように見えるとしたら、それはその災禍がもとより一つの宿命としてあるからなのではない。あらゆる領域の多種多様な決定、悪意やエゴイズムよりもむしろ近視眼でもって特徴づけられる数々の決定が、自己外在化ないし自己超越のメカニズムに即して、屹立する全体を構成するからなのである。そこでの悪は道徳的でも自然的でもない。その第三種の悪を、私はシステム的な悪と呼ぼう。その形態は聖なるものの形態と同一になる」（デュピュイ、前掲書）

ここで「聖なるものとは人間の暴力が人間自身の外に置かれたものをいう」とされるために、システムは聖なるものと同等の位置におかれることになる。

このようなシステムのイメージは、ただちに②村上春樹の問題意識を連想させずにはおかないだろう。そう、例えば村上は次のように発言し②そして我々はみんな多かれ少なかれ、それぞれにとっての硬い大きな壁に直面しているのです。その壁は名前を持っています。それは『システム』と呼ばれています。そのシステムは本来は我々を護るべきはずのものです。しかしあるときにはそれが独り立ちして我々を殺し、我々に人を殺させるのです。冷たく、効率よく、そしてシステマティックにている。（「壁と卵――エルサレム賞・受賞のあいさつ」『村上春樹 雑文集』新潮社）

むろんシステムは一つではない。政治システム、経済システム、法システム、電力システム、その他無数のシステムがわれわれを保護しつつ包囲している。しかしシステムへの依存が強ければ強いほど、システムの抑圧と拘束は強くなり、われわれの存在は匿名化されてゆく。

システムには「顔」がない。それは偏在しながら意識されることはなく、神の位置にありながらわれわれの分身に過ぎないという奇妙な出自を持っている。それゆえひとたび「システム的な悪」が生じれば、われわれはただちに共犯関係におかれることになるだろう。

欲望のレベルでわれわれを内在的に支配するのが「父の名」であるとすれば、システムに「父の名」はない。システムは観念や象徴を介してわれわれを支配するような存在ではない。それは欲望ではなく欲求という水準においてわれわれの身体に働きかけ、快感原則にのっとってわれわれを動物化するとともに、不快さの境界を張り巡らしてくまなく包囲するだろう。

いうまでもなくシステムそのものにはいかなる「悪意」も存在しない。その意味でシステムは価値判断とは分

考試科目	日本社會文化B	系所別	日本語文學系 三年級	考試時間	7月10日(三)第四節

離される。電力システムに悪意があるなどと、誰ひとり予想した者はいなかった。しかし、ひとたび「地震」や「津波」という自然的な悪が作用すれば、このシステムはその悪を何倍にも増幅して拡散し垂れ流す。

しかもその「悪」は、システムそのものに本質的に備わったものであるがゆえに、システムそのものを廃滅しない限り、破局を完全に防ぐ手立てはないのだ。そのシステムをつかさどる“司祭たち”がシステム保守のために公然と嘘をつく存在であることが知れ渡った今、彼らがどれほど“正しい説得”をしようとも、もはや耳を貸す者はいないだろう。

デュピュイは言う。「③未来は私たちの外部にある。それは私たちを自分自身のさらに上へと押し上げ、人間の歴史全体を見渡せるような、おそらくは歴史に意味を付与できるような眺望を見出させてくれる梃子でもある。③未来は私たちにとっての聖なるものだ。それは善でも悪でもありうるが、私たちはそれをあらかじめ予測できない。ただ私たちはそれに、原始宗教が神に対して抱いていたのと同じ気遣い、同じ献身を捧げなくてはならないのだ」

このくだりに至って、デュピュイみずから反知性主義すれすれの主張に接近しているようにみえるのは私の気のせいだろうか。しかし問題は、われわれが④破局をいかにリアルな感情とともに思い描きうるか、この一点にかかっているのだ。未来にこの身を捧げよ、という、いささか自棄にも思える提言は、未来に向けた倫理観が、人々の行動を伴わなければまったく無意味であるという確信に基づくものだろう。（斉藤環『原発依存の精神構造 日本人はなぜ原子力が「好き」なのか』、新潮社、2012.8、P.38~P41）

① 問い：ハンナ・アーレントの分析によれば、いわゆる「システム的な悪」とは、例えば「ユダヤ人の大量虐殺にかかわったアイヒマンの問題は、彼の悪意ではなく、「想像力の完全な欠如、他人の身になり、他人の立場から世界を見る能力の不全」とみなされた。ここでの「システム的な悪」の意味合いを更に他の二、三の例を取り上げ、相対的に対照比較させ、検討分析を行ってみなさい。（15%）

② 問い：村上春樹の問題意識としては、いわば「我々はみんな多かれ少なかれ、それぞれにとっての硬い大きな壁に直面しているのです。その壁は名前を持っています。それは『システム』と呼ばれています。」という、その相対化される「壁」としての「システム」と、か弱い存在である「卵」としての我々市民たちの身体性、殺すシステム的な悪と、殺される卵たちの圧迫感との両者を更に実例を挙げて、説明し、検討分析しなさい。（15%）

③ 問い：「未来は私たちの外部に」ありながら、更に「未来は私たちにとっての聖なるものだ」と言い切ってしまうのはなぜだろうか。未来に対する「原始宗教が神に対して抱いていたのと同じ気遣い」とはどういうような精神構造を示していると思うのか、デュピュイの主張の主旨を簡潔にまとめて把握しなさい。（10%）

④ 問い：デュピュイの反知性主義すれすれの主張としては「破局をいかにリアルな感情とともに思い描きうるか、この一点にかかっているのだ」と言う。そのような自棄に満ちた言葉は未来に向けたどういう形の倫理観を示しているのか、我々はどうやってリアルな感情をもって破局を思い及んで描くことができうるのか、更に厳密な意味として、説明

考試科目	日本社會文化B	系所別	日本語文學系 三年級	考試時間	7月10日(三)第四節

しなさい。(10%)

2.

日本は世界で最も成功した社会なのだろうか？　こんな問いかけはもうそれだけで馬鹿にされるだろうし、朝食をとりながらこれを読んでいる皆さんはププッと吹き出してしまうのだろう（まあ最初からそのつもりで聞くわけだが）。日本の社会は成功例なのか、だって？　そんなのは、日本の経済停滞や財政赤字や企業の衰退について散々聞かされてきたことの正反対じゃないか。

日本をどう思うか、韓国や香港やアメリカのビジネスマンに尋ねてみれば、10人中9人が悲しげに首を振るだろう。ふだんならバングラデシュの洪水被災者に向けるような、痛ましい表情を浮かべて。

「あの国は本当に悲しいことになっている。完全に方向を失ってしまっている」

これはシンガポールのとある高名な外交官が最近、筆者に語った言葉だ。

日本の衰退を主張するのは簡単なことだ。名目国内総生産（GDP)はおよそ1991年レベルにあるのだから。日本が失ったのは10年はおろか、おそらく20年にはなるのだろうと思い知らされる、厳粛な事実だ。JPモルガンによると、1994年時点で全世界のGDPに対して日本が占めた割合は17.9%。それが昨年は8.76%に半減していた。ほぼ同じ期間に日本が世界の貿易高に占めた割合はさらに急落し、4%にまで減っていた。そして株式市場は未だに1990年水準の約4分の1でジタバタしている。デフレはアニマル・スピリットを奪うものだ。日本は「魔法」がとけてしまったのだとよく言われるし、投資家たちは、日本企業がいつの日かは株主を最優先するようになるという幻想をついに諦めた。

こういう一連の事実はもちろん何がしかのことを語っているのだが、それは実は部分的な話に過ぎない。日本について悲しげに首を振る人たちの思いの裏には、前提となる思い込みが二つある。うまく行っている経済というのは、外国企業が金儲けし易い環境のことだ――という思い込みがひとつ。その尺度で計れば確かに日本は失敗例で、戦後イラクは輝かしい成功例だ。そしてもう一つ、国家経済の目的とはほかの国との競争に勝つことだ、という思い込みもある。

別の観点に立つなら、つまり国家の役割とは自国民に奉仕することだという立場に立つなら、かなり違う光景が見えてくる。たとえ最も狭義の経済的視点から眺めたとしても。日本の本当の業績はデフレや人口停滞の裏に隠れてしまっているのだが、一人当たりの実質国民所得を見れば（国民が本当に気にしているのはここだ）、事態はそれほど暗いものではなくなる。

野村証券のチーフエコノミスト、ポール・シアード氏がまとめたデータによると、一人当たりの実質所得で計った日本は過去5年の間に年率0.3%で成長しているのだ。大した数字には聞こえないかもしれないが、アメリカの数字はもっと悪い。同期間の一人当たり実質国民所得は0.0%しか伸びていないのだ。過去10年間の日米の一人当たり成長率は共に年0.7%でずっと同じだ。アメリカの方が良かった時期を探すには20年前に遡らなくてはならない。20年前はアメリカの一人当たり成長率1.4%に対して日本は0.8%だった。日本が約20年にわたって苦しんでいる間、アメリカは富の創出においては日本を上回ったが、その差はさほどではなかった。

①GDPだけが豊かさの物差しではないと、日本人もよく言いたがる。たとえば日本がどれだけ安全で清潔で、

考試科目	日本社會文化B	系所別	日本語文學系 三年級	考試時間	7月10日(三)第四節

世界でも一流の料理が食べられる、社会的対立の少ない国かを、日本人自身が言うのだ。そんなことにこだわる日本人（と筆者）は、ぐずぐず煮え切らないだけだと言われないためにも、かっちりした確かなデータをいくつかお教えしよう。日本人はほかのどの大きな国の国民よりも長く生きる。平均寿命は実に82.17歳で、アメリカ人の78歳よりずっと長い。失業率5%というのは日本の水準からすると高いが、多くの欧米諸国の半分だ。日本が刑務所に収監する人数は相対的に比較するとアメリカの20分の1でしかないが、それでも日本は世界でもきわめて犯罪の少ない国だ。

昨年の『ニューヨーク・タイムズ』に文芸評論家の加藤典洋教授が興味深い記事を寄稿していた。①加藤氏は日本が「ポスト成長期」に入ったのだと提案する。ポスト成長期の日本では無限の拡大という幻想は消え去り、代わりにもっと深遠で大事な価値観がもたらされたのだと言うのだ。消費行動をとらない日本の若者たちは「ダウンサイズ運動の先頭に立っている」のだと。加藤氏の主張は、ジョナサン・フランゼンの小説『Freedom（自由）』に登場する変人の物言いに少し似ている。ウォルター・バーグランドという勇気ある変人は、①成熟した経済における成長（growth）とは成熟した生命体における腫瘍（growth）と同じで、それは健康なものではなくガンなのだと主張するのだ。「日本は世界2位でなくてもいい。5位でなくても15位でなくてもいい。もっと大事なことに目を向ける時だ」と加藤教授は書いている。

日本は出遅れた国というよりはむしろモデルケースなのだという意見に、アジア専門家のパトリック・スミス氏も賛成する。「近代化のためには必然的に、急激に欧米化しなくてはならないという衝動を、日本は克服した。中国はまだこの点で遅れているので、追いつかなくてはならない」。スミス氏は、非西洋の先進国の中で独自の文化や生活習慣をもっとも守って来たのは日本だとも言う。

ただし、強弁は禁物だ。日本は自殺率が高く、女性の役割が限られている国なのだから。加えて、日本人が自分たちの幸福についてアンケートされて返す答えは、21世紀を迎えてすっかり安穏としている国民のものでは決してない。日本はもしかすると、残り少ない時間を削って過ごしている国なのかもしれない。公的債務は世界最高レベルなのだし（ただし外国への借財がほとんどないのは大事なことだが）。今の日本は巨額な預貯金の上でぐーぐー居眠りをしているのだが、給料の安い今の若者世代がそれだけの金を貯めるには、さぞ苦労することだろう。

経済の活力を内外に示すことが国家の仕事だというなら、日本国家の仕事ぶりはお粗末きわまりない。しかし、仕事がある、安全に暮らせる、経済的にもそれなりで長生きができる——という状態を国民に与えるのが国家の仕事だというならば、日本はそれほどひどいことにはなっていないのだ。

(デビッド・ピリング「成長するばかりが人生ではないと気づいた日本」“フィナンシャル・タイムズ” 2011年1月5日初出　翻訳 goo ニュース 2011年1月7日)（http://news.goo.ne.jp/article/ft/world/ft-20110107-01.html）

① 問い：「加藤氏は日本が『ポスト成長期』に入ったのだと提案する。ポスト成長期の日本では無限の拡大という幻想は消え去り、代わりにもっと深遠で大事な価値観がもたらされたのだと言うのだ」。それでは、ここで言う「無限の拡大という幻想」に取って代わる「深遠で大事な価値観」とは、どういう形の「成熟した日本の新たな姿」と考えるべきか、その趣旨を把握し、解釈検討を行ってみなさい。（15%）

考試科目	日本社會文化B	系所別	日本語文學系 三年級	考試時間	7月10日(三)第四節

3.「ネットは世の中変えないどころか、むしろ悪くしている」批評家・東浩紀が振り返る ネットコミュニティの10年

村上 隆則 2019年05月28日 10:59

批評家・東浩紀氏のエッセイを集めた著書『ゆるく考える』（河出書房新社）が好評だ。同書には2008年から2018年の間に書かれた同氏の文章がおさめられており、その考えの変遷を辿ることができる。
今回、同書の内容に加え、この10年の「ネットと政治」の関係や、今後注目されていくであろう新たなコミュニティの可能性について、東氏にたっぷりと語ってもらった。

変わったのは「ネットを使うと新しい時代が作れる」という希望の有無

―― この10年、形を変えながら様々な活動をしてきたと思いますが、振り返ってみていかがですか

もともと僕は難しいタイプの哲学や批評をやるところからスタートしましたが、ゲンロン（編集部注：東氏が立ち上げたイベント、出版事業をおこなう企業）という会社をやり始めて、今までの哲学とか批評の言葉の限界というのを強く意識するようになりました。
大学人や物書きをやっている間は、付き合う人は編集者が多かったし、読者と頻繁に会うわけでもない。その読者も限定されていたので、あまり言葉の限界に気が付かなかった。
ゲンロンを作って以降、本来の哲学や批評というものはもっと広い形のものだと強く思うようになりました。そこで自分の表現も変えていくことにしました。

―― 東さんはネット時代の論者という見られ方をすることも多かったと思います。ネットを通じて発信をするということについては、この10年、どんな変化があったとお考えですか

① 10年前と今とでもっとも違う点は、「ネットを使うと新しい時代が作れる」という希望の有無だと思います。僕はその希望はもうないと思っている。

もちろん、多くのひとが今でもそう信じてるでしょうし、部分的にはよくなる部分もあると思います。けれど、社会全体としては、結局ネットやSNSが普及しても、それだけでは世の中よくなるわけじゃないな、というのはコンセンサスがとれてきたのではないでしょうか。
僕は1971年生まれで、Windows95がブームになったときに24歳くらい。まさにインターネットが世界を変えるようすを目の前で見てきた世代だったので、ネットで世の中をよくするとしたら自分たちの世代が第一陣だろう、という自負がありました。
実際、2000年代は僕も30代で、若い世代とネットの力で世の中を変えられるんじゃないかと思っていた。テレビでそんなことも言ったりしました。ところがそれはダメだった。少なくとも、そんな単純な話じゃないということがわかってきた。その中で、僕自身、元気のいいことを言うのではなく、もう少し深く足元を見つめる方向

考試科目	日本社會文化B	系所別	日本語文學系 三年級	考試時間	7月 10 日(三) 第四節

に変わっていきました。

——②「ネットで世の中は変わらない」と思ったきっかけはなんだったのでしょうか

それは数多くあったと思いますが…、ひとつ挙げるとすれば②震災のあとの国会前デモですね。 ②反原発から SEALDs に至る流れ。僕の中ではあれが不発だったのがとても大きかった。同じ頃、世界ではアラブの春とかニューヨークのオキュパイ・ウォールストリートとかがあって、日本の国会前デモもまたそれらと同じ SNS を使った祝祭型のデモだった。2010 年代にはそういったデモが世界中で起きました。けれども結局は、一時的に盛り上がるだけで、ほとんど何も成果が出ずに忘れさられてしまう。日本でもそうでした。そういう光景を見て、ネットはお祭りを作ることしかできないと思うようになりました。
SEALDs もちゃんと持続可能な組織に育てばいいと思ったんですけどね。でもなぜか解散するのが潔いみたいな話になってしまいました。持続可能な、面倒なことはみんなやらないんですよね。

—— 確かに、一過性の集まりだけでなく、みっともなくてもちゃんと続けていって、条文をちょっとでも変えるとか、そういうことを目指してもいいと思いますね

日本の場合、もともとの同調圧力の文化と SNS がくっついてしまったために、とくに「祭り志向」の時代になってますね。
とにかく、いろんな人が同じ方向を向いていて、ぱーっと盛り上がって、すぐに忘れてしまう。そして、ちょっと違う意見の人たちをみんなでいじめて、いじめられた人がアカウントを削除したらすぐ別の標的を見つけての繰り返し。削除したアカウントのことなんて翌日には誰も覚えてない。

③ネットは世の中変えないどころか、むしろ悪くしている—— SNS では議論はできない？

できませんね。日本では原発事故のあと、原発の是非が議論になりかけました。③けれど、SNS 上ではあっという間に原発賛成派と反原発派の罵り合いになってしまって、対話も何も生まれなくなってしまった。みなが毎日同じキーワードで検索をかけて、自分と違う陣営の人を見つけてはスクラムをかけて潰す、そんなことをやり合うだけの道具になってしまった。
その点では、ネットは世の中変えないどころか、むしろ悪くしている。フェイクニュースとかポストトゥルースといわれていた現象で、これもいまはみなわかっていることだと思います。

—— マイナスのイメージが強くなってしまったんですね

SNS は人々の生活を窮屈にしている。インターネットを使っても、人間は全然賢くならない。むしろ愚かな部分

考試科目	日本社會文化B	系所別	日本語文學系 三年級	考試時間	7月10日(三)第四節

が増幅されていくだけ。当たり前ですが、世の中を変えるためには、まず人間を変えなければいけない。新しい技術が来たから新しい世の中が出現するというものではない。そんな非常にシンプルなことを感じ続けた10年でした。

―― SNS以外はどうですか？

問題は「リアルタイム」が重視されすぎていることです。いいかえれば、みな時間の価値を軽視しすぎている。ゲンロンカフェ（編集部注：ゲンロンが運営するイベントスペース）では動画の中継をやっていますが、そのプログラムでは、コミュニケーションには一定の時間がかかることを前提にしています。他人の意見を理解するためには3分のパワーポイントではダメなんですよ。それでは、自分がその人に期待していることを確認するだけで終わってしまう。人格が見えてこないから、ちょっとでも違うと思ったら攻撃してしまう。
これはよくいうんですが、ゲンロンカフェは、TEDなら3分で済むところを3時間かけてやる場所です。残りの2時間57分で何をやっているかというと、その3分の背景にある人格を見せているわけです。なぜそんな一見無駄なことをしているかというと、そのような部分があると、たとえその人が間違ったことを言ったり、ミスをしたりしても、その背景の文脈がわかるからです。そうすると、批判する側も一歩ふみとどまって考えることができる。そしてそこから対話が始まったりする。③そういう対話を作るためには、どうしても登壇者や視聴者を一定時間拘束するというか、話に付き合わせる必要がある。

―― 脊髄反射的な攻撃をされにくいようにしているということですね

そうです。もうひとつ、ゲンロンカフェの中継ではプログラムは番組単位で買ってもらうようにしています。無料公開して盛り上がっているところに投げ銭してもらうほうが、いまはメジャーな中継方法です。実際に収益性も高いのかもしれないけど、そうすると登壇者の言うことは変わってきます。誰もが極端な発言で盛り上がることばかり目指すようになってしまう、あるいはその逆に炎上しないことばかり考えてしまうので、議論の質が変わってしまうんですね。
僕はネットは否定しません。現にいま、うちの会社ではそうやって一定時間の「無駄な部分」をひとつのパッケージのなかに入れて売ることをやっているわけですが、こういうことを意識すればネットもコミュニケーションをよくするために使えると思います。ただ、今はプラットフォーマーもコンテンツを作る人たちも、とにかくリアルタイムで瞬時に沢山の人に共有されるものを目指している。そして、スケールさせてお金を集めようぜという話しかしない。これだと提供できるものの質が限定されてきますね。

―― 確かに、ネット上のコンテンツはシェアされるためにどんどん短く、早くなっているように感じます

猫の動画とかを紹介しているうちはいいし、それはそれでいいんでしょうけどね。でも、それは議論には絶対向かない。つまりは、ファスト志向のリアルタイムウェブには向いているものと向いていないものがあって、なか

考試科目	日本社會文化B	系所別	日本語文學系 三年級	考試時間	7月 10 日(三) 第四節

でも政治は一番向かないものなんです。政治をネットに使うときはそこを真剣に考えなきゃいけない。
プラットフォーマーが別のサービスを開発してくれればいいんですけどね。でもとりあえず短期的な収益を考えると、今の流れが必然なんでしょう。
（https://blogos.com/article/380108/?p=1）

① 問い：東浩紀氏は「10年前と今とでもっとも違う点は、『ネットを使うと新しい時代が作れる』という希望の有無だと思います。僕はその希望はもうないと思っている」し、「結局ネットやSNSが普及しても、それだけでは世の中よくなるわけじゃないな、というのはコンセンサスがとれてきたのではないでしょうか」と思いがちですが、それは間違っていたのはなぜなのか、その原因を説明しなさい。（10%）

② 問い：結局、東浩紀氏は「ネットで世の中は変わらない」と思ったきっかけはなんだったのでしょうか。なぜ「日本の国会前デモも」また世界中で流行っているそれらと同じ「SNS を使った祝祭型のデモだった」とみるのか、そのネットは「ぱーっと盛り上がって、すぐに忘れてしまう」お祭りを作ることしかできない、という社会の繋がり方について、その意味合いを噛み締めて、検討分析しなさい。（10%）

③ 問い：「ネットは世の中変えないどころか、むしろ悪くしている― SNS では議論はできない」とまで悲観的に思ってしまう東浩紀氏であるが、「対話を作るためには、どうしても登壇者や視聴者を一定時間拘束するというか、話に付き合わせる必要がある」という氏の提案をあなたはどう思うのか、自分の見解を述べてみなさい。（15%）

備註	一、作答於試題上者，不予計分。 二、試題請隨卷繳交。